

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第72号 R4. 7. 1

「とよの未来科」大特集 ～ふるさと♡とよの⑫～

【とよの未来科教材研修 ～モリアオガエルの飼育～】

6月7日（火）に、吉川中学校区学校運営協議会委員の向井さんを講師にお招きし、豊能町に住む珍しい生き物の生態についての研修を行いました。生き物についての知識だけでなく、向井さんの生き方についてもお話をいただきました。

【向井さんの研修より】

「私は、教師でも学者でもないから、できることはたかが知れている。自分がこれまで体験してきたこと、感動したことを子どもたちに伝えられたらと思って活動してきた。人間、最後に帰るのはふるさとやから、ふるさとのことを色々感じてほしい。」

【向井さんの大切にしている言葉】

“知る”ことは“感じる”ことの半分も重要ではない”

レイチェル・カーソン／『センス・オブ・ワンダー』より



【モリアオガエルの卵さがし ～吉川小学校～】

上記の研修後、地域の方に許可をいただき、吉川小学校の1・2年生が近くのため池にモリアオガエルの卵塊を観察しに行きました。

子どもたちは「卵見たことある。」「今日カエル見に行くから長靴はいてきてん。」と出発前からやる気満々！

「あそこにあるよ！見える？」



「あ！あそこにある！」



「プニプニして気持ちいい！」



「卵、とれないかなあ。」ということで、最後に自然からの贈り物として、モリアオガエルの卵を1つだけいただきました。実際に卵を触った子どもたちからは、「気持ち悪～い。」「綿あめみたい。」「プニプニしている。」「お腹みたい。」「次、どうしよう。」など、感じたことを思い思いに言葉にしていました。子どもたちの実感を伴った言葉が、次の学び、次の活動をつくっていくのだなと感じました。

【ひまわりの種まき ～東能勢小学校～】

6月9日（木）に、東能勢小学校の1～4年生が、6月13日（月）に5・6年生が、地域おこしの活動をされているトヨノ部さんの畑で、ひまわりの種まきをしました。



【1・2年生の様子】

【3・4年生の様子】

【5・6年生の様子】

この日のために、トヨノ部の方々が畑の準備をしてくれました。

3・4年生は「去年もやったから知ってる！」と大はりきり！その言葉通り、さっと穴を掘り、ちよんと種を入れ、そっと土をかぶせていました、最後の水やりまで、とても手際よく驚きました。終わった後は、「揚げパン食べに帰ろう！」と、いかに子どもらしい声が聞こえてきました。夏に、きれいな花を咲かせてくれるのが、今から楽しみです。

（6年生のふりかえりより ～抜粋～）

種をまくときに、ていねいに種の数を数えました。/ひまわりの種をまくのは大変だったけれど、きれいに咲いたら見に行きたいです。/今日はいい経験をさせていただきました。ありがとうございます。



“小学生の頃に行った体験活動などの経験は、その後の成長に良い影響を与える”と言われていいます。（文科省 体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクトより 下記 URL 参照）

「とよの未来科」では、地域全体を学びの場ととらえ「豊かな自然」と「豊かな人材」を活かし「豊かな子ども」を育てていきます。

CLICK HERE >> https://www.mext.go.jp/content/20210908-mxt_chisui01-100003338_1.pdf

ひかり幼稚園・光風台小学校 保幼小連携実践

6月14日（火）に、ひかり幼稚園の園の年長さんと光風台小学校の1年生と一緒に体育の授業を受けました。前半は幼稚園で行っているリズムに合わせた運動遊び、後半は幼児活動研究会コスモスポーツクラブの高木氏をゲストティーチャーに招き、サーキットトレーニングを行いました。

「お兄ちゃん、お姉ちゃん、並ぶの上手だな～」



「幼稚園でもやってるよ～。」



「みんなでやってみよう！」



「跳び箱、ジャンプ！」



「フープに当たらないように！」



「リズムよく。グーパーグーパー。」



幼稚園、小学校の先生が授業を通してお互いの取組みを知り合い、体を動かすことが好きになる児童を増やすことをめざし、実践が進められています。「めっちゃ走った！」「もっとやりたかったなあ。」という子どもたちの言葉が印象的でした。